

日本語教室指導者 群馬大が養成講座

日本に定住する外国人に
日本語を分かりやすく伝え
ようと、群馬大は27日、太
田市本町の同大太田キャン
パスで、日本語教室の指導

実際にマッサージをしながら
日本語教室で行う内容を考え
る参加者(27日、太田市本町
の群馬大太田キャンパスで)



者養成講座を開いた。

同教室は、定住が長くな
って高齢化が進むことに備
え、2013年から文化庁
の委託を受けて開かれてい
る。この日の指導者講座に
は、小学校教員や大学生ら
計14人が参加。「健康づく
り」などをテーマに、「マッ
サージやストレッチなどの
動きを文化の違いを考慮し
ながら伝える方法を話し合
った。

同大多文化共生教育・研
究プロジェクト推進室の結
城恵教授は「15年ほど前に
比べ、外国人の定住率は高
い。安心して生活してもら
うためにも、準備の手助け
をしたい」と話していた。
教室は県内在住の外国人

を対象に、7月12日から来
年1月まで全10回を予定。
旅行計画を立てる方法や冠
婚葬祭のマナーなどを学

ぶ。申し込み締め切りは7
月3日。問い合わせは、結
城教授の研究室(027・
220・7382)へ。

定住外国人に安心を

群馬大 開講へ 高齢化備え日本語教室

群馬大は7月12日か

教室は、外国人を対

話を話す。

見を出し合った。

でなく、指導スタッフの人材育成も同時に目指している。
3日まで受講者を募集している。問い合わせは結城教授の研究室
(☎0277・2220・7382)へ。

ら、定住外国人の高齢化を見据えて「生活者」の視点を重視した日本語教室を開講する。27日には太田市の太田キヤンパスで指導スタッフの養成講座を開き、効果的な指導法や教室運営について活発に意見交換した。

象に来年1月まで計10回開く。健康づくりや冠婚葬祭への参加といった定住者ならではの内容を扱う。主宰する結城恵教授は「年齢を重ねても安心して日本に住み続けてもらうために、必要な知識などを広めていきたい」と狙

27日の養成講座には、社会人や学生などの多国籍メンバー15人が集まり、マッサージやストレッチの重要性をどう伝えるかについて意見交換された。生徒だけ



日本語教室の運営について話し合う結城教授(右)と指導スタッフ

マッサージ 通じ日本語

太田で外国人教室

外国人が高齢になっても安心して日本に住み続けられるよう日本語や習慣を学ぶ教室が

19日、太田市の沢野行政センターで開かれた。外国人約40人がマッサージを教わり、関連する日本語を学んだ。

定住外国人に健康や社会生活の知識を身に付けてもらおうと群馬大が開いており、3年目。12月から来年1月24日までの計10回の講座で、体と心を元気にするために必要なことや冠婚葬祭のマナーを学ぶ。文化庁の委託事業で、同大の結城恵研究室が企画運営している。

2回目のこの日のテーマは健康な体づくりのためのストレッチとマッサージ。事前に

外国人でも文化的に受け入れられやすいようプログラムを調整した。マッサージは前橋市でエステサロンを開く

狩野愛子さんが指導した。背中をさすったり軽くたたいたりする方法を教えると、参加者からは「すごい気持ちいい。もっと受けたい」との声が上がった。その後、参加者はマッサージを切っ掛けにコミュニケーションを取るための日本語のやりとりを学んだ。



体を健康に保つためのマッサージを学ぶ参加者

日本語教育の 在り方考える

太田・群大で成果発表会

地域の日本語教育プログラム充実を目的に、ウオーキングなど、参加者は行事や習慣の勉強を通じて日本語を学んだ。発表会では活動を報告し、日本語教育の充実に必要なことについて意見交換した。

同大は本年度、高齢期を迎える外国人向けに日本語教室を同市内で開いた。葬式のマナ

地域の日本語教育プログラムや健康を保つためのウオーキングなど、参加者は行事や習慣の勉強を通じて日本語を学んだ。発表会では活動を報告し、日本語教育の充実に必要なことについて意見交換した。

太田宝泉小の「国際教室」は、外国籍の子どもたちが活動を発表した。放課後や夏休み

に日本語の勉強や学校の宿題をしたことや、学習成果を発表する保護者会を開いたことを報告した。

その後、文化庁の補助を受けて2年前から開かれている群馬大の教室について説明した。最後に教室を企画した結城恵教授が「伝えたい人がいて、



太田宝泉小の国際教室の取り組みを紹介する児童

伝えたいことがあるから言葉がある。日本語を教えることを一つのきっかけとして、外国の方が誇りと尊敬を育てるような教室にしていきたい」と語った。